

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(外国語(英語))科目：(英語コミュニケーションⅡ) 対象：(第 2 学年A 組～E組)

科目担当者：(A組:和久田・兼平 (印))(B組:兼平・中里 (印))(C組:田島・兼平 (印))(D組:兼平・和久田 (印))(E組:中里・和久田 (印))

教科・科目の指導目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を伸ばす。
------------	--

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 英文を作成するときに、主語、動詞があることは理解している。しかしそれ以外の語順の理解、区別がつかない生徒が多く見受けられた。</p> <p>2 be動詞の疑問文と否定文については多くの生徒が理解している。しかし一般動詞の文が混在すると混乱してしまうことがある。</p> <p>3 ALTとの授業の成果として、リスニングや会話力が伸びてきている。</p> <p>4 外部検定に積極的に取り組み、力を伸ばしている生徒がいる。</p>	<p>1 英語を使用している人々の日常生活、風俗、習慣など、言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解し、英語を学ぶ意義について指導する。</p> <p>2 基本的な英文法を意識し、四技能の指導を行う。</p> <p>3 身近な話題についてコミュニケーションするのに必要な語句を指導し、ペアやグループでの活動を行う。</p> <p>4 既習の語句や表現、文法事項を活用して、身近な話題について文を作る練習を行う。</p>	<p>1 習熟度によるコミュニケーション英語の授業において、既習事項である基礎力の定着を目指す指導を行うと同時に発展的、応用的な内容の指導も行う。</p> <p>2 放課後や長期休業中の補習では、基礎力の定着が不十分な生徒への指導を行うとともに、外部検定などに向けて発展的な内容の指導も行う。</p> <p>3 各科目の教科指導担当が教科内の研修等で教授法について日々情報共有や課題解決を行う。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			